また音楽の時間は必ず軍歌もつけ加えて教えられた。三十曲位の軍歌が頭に入った。

またこの時代の私達の遊びは殆んど道具が無いので工夫して、〝肉弾〟〝隼戦闘機〟等？人に身体を思いっきりぶつっけて他人を倒す、まるで特攻隊をイメージした遊びをしていた。

朝礼、終礼には必ず全校生徒を集めて、戦時体制の心得を話し、また学校の年間の多くある式典には教育勅語を拝読し、軍歌〝海ゆかば〟を歌い、毎日登下校には校門の前の奉安殿（天皇皇后の写真を飾ってある）に最敬礼をしないと罰せられていた。

家庭にあっては国民夫々の義務として奉仕活動をしなければならなかった。

一、興国養兎…兎を家庭内で飼育して増やす
　　毛皮、食肉用
一、興国養蚕…蚕を飼育し繭をとる
　　…絹糸
　　毎年繰り返えし飼育
一、ヒマを植樹…実から油がとれるので
一、ラミー採集…麻の繊維
一、いなご…多くとって乾燥する…
　　食用
一、古鉄…古紙回収

この様な奉仕活動を同時に頑張っていた。

これ等の収穫は総て無償で学校を通じて国に納めた。戦争が激しくなると益々強制させられた。学校の運動場の三分の二は食糧増産の為と農園になった。放課後農作業をした。

私達の学校は二千名ものマンモス校であり、総ての奉仕活動の成果は並外れていた。

昭和十九年に入ると食糧事情が悪化した為、昼の弁当を持参できぬ子が多くなり、体力は益々低下し、朝礼時や体育時に多くの子が倒れ、長期欠席につながっていた。

生活必需品は総て厳しい配給制度となって学用品等も甚だしく不足し、ノートや鉛筆は年間一度位の配給であった。消しゴムの代用として車のタイヤの端切れを使った。その頃誰れかが教室内で落し物をすると、直にそれは拾った人の物になるという様に全く子どもの心までが醜いものになっていった。

その頃父親が出征した家庭が多くあった為、衣食住にこと欠き奉仕活動に疲れ果てた子ども達の心は益々荒廃した姿となっていった。